

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	哲学
担当者 資格、役職等	大学准教授	履修年次 及び学期	2年次 前 期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>(1) 哲学の問いについて概要を把握することを目指す。</p> <p>(2) 哲学の問いについて歴史的な展開を概観できるようになる。</p> <p>(3) 哲学の問いについて自分なりに考えを深めることを目指す。</p> <p>【概要】</p> <p>(1) 哲学の問いについて概要を把握する。</p> <p>(2) 哲学の問いについて歴史的な展開を概観する。</p> <p>(3) 哲学の問いについて自分なりに応答を探る。</p>		
授業計画	第1回 授業の目的と予定, 受講上の注意, 成績評価の方針。哲学とは。 第2回 古代ギリシャの哲学（1）：ソクラテスと対話 第3回 古代ギリシャの哲学（2）：プラトンと教育 第4回 古代ギリシャの哲学（3）：アリストテレスと倫理 第5回 中世の哲学：アウグスティヌスと宗教哲学 第6回 近代の哲学（1）：デカルトと大陸合理論 第7回 近代の哲学（2）：ロックとイギリス経験論 第8回 近代の哲学（3）：カントと観念論 第9回 現代の哲学（1）：ニーチェヒルサンチマン 第10回 現代の哲学（2）：フロイトと精神分析 第11回 現代の哲学（3）：サルトルと実存主義 第12回 アメリカの哲学（1）：エマソンと超越主義 第13回 アメリカの哲学（2）：ロールズと政治哲学 第14回 授業のまとめと期末テスト対策 第15回 期末テスト		
教科書	特になし		
参考書	授業において適宜示す		
評価の方法	レポート 60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	大学准教授が哲学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	教育学
担当者 資格、役職等	元大学教授	履修年次 及び学期	2年次 前　期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 私の恩師 唐澤富太郎先生は、「教育学とは人間形成の学である」と述べています。今ある自分よりもマシな自分になるように成長していく自己教育のことである、と思います。絶えざる積み重ねによって、自分が、自分を、自分に形成していくことである、と考えます。学び続けることによって、生涯青春の道を歩み続けたいものです。この授業を通して、皆さんとともに夢と希望を語り合いたいと思います。</p> <p>【概要】 この教科書は、これから保健医療の高度専門職を目指す皆さんを念頭において執筆しました。各回のタイトルの講を事前に読んでください。その講の中で心に残った箇所を引用して、200字原稿用紙に考察を書いてください。書き足りない場合は、裏に続けて書きます。ペア学習を行い、一言コメントを欄外に書いて提出します。次回に、教員のコメントを書いて返却します。事後学習は、教科書の「復習問題」に取り組んでください。次回に答え合わせを行い、知識の定着を図ります。</p>		
授業計画	<p>【第1回】授業の進め方、人間形成の産量、家庭教育</p> <p>【第2回】人間性の座</p> <p>【第3回】「学びの3つの柱」と人間形成、生涯学習社会とリカレント教育</p> <p>【第4回】「主体的・対話的で深い学び」を具現化する学習方法</p> <p>【第5回】学習の原理、教育の目的・目標、内容・方法</p> <p>【第6回】聖徳太子の「十七条の憲法」</p> <p>【第7回】貝原益軒の道徳教育論と養生思想</p> <p>【第8回】二宮尊徳の実学思想</p> <p>【第9回】ヒポクラテスと『サレルノ養生訓』</p> <p>【第10回】親鸞・道元・日蓮にみる「知・情・意」の教育者像</p> <p>【第11回】『塵劫記』の「三容器の協力関係」と「いじめ問題」への対応</p> <p>【第12回】人間形成における“もの”と“こころ”的相即の妙</p> <p>【第13回】「田定規」をつくり、思考力・判断力・表現力を鍛える</p> <p>【第14回】看護師（高度専門職）に求められる「事情鍊磨」</p> <p>【第15回】800字小論文試験</p>		
教科書	土井進（2022）『保健医療従事者のための「教育学」』 株式会社医療タイムズ社		
参考書	必要に応じてプリントを配布します。		
評価の方法	事前学習200字原稿（3点×14回=42点）、小論文（58点） 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元大学教授が教育学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	文化人類学
担当者 資格、役職等	元大学教授	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 文化人類学は自己と他者、自文化と他文化との差異を探求しながら、自己(自文化)中心的な発想を脱して、異文化を理解しようとする学問である。「人間とは何か」という根源的な問いを「気づきのための学問」としての文化人類学の視点から探求することが目標である。</p> <p>【概要】 家族と親族、親族と結婚、性と文化表象、生と死、儀礼と象徴などの基礎的な人類学概念を学ぶとともに、医療人類学、異文化間介護、国際協力と医療活動まで的人類学的「知」の体験を学ぶ。</p>		
授業計画	第1回 人類学の世界 第2回 家族と親族 第3回 親族と結婚 第4回 ジェンダー① 生物学的差異と文化的差異 第5回 ジェンダー② 双子の世界 第6回 ジェンダー③ さかさまの世界 第7回 通過儀礼 第8回 死の儀礼① 第9回 死の儀礼② 第10回 生殖と生殖技術 第11回 医療人類学① 第12回 医療人類学② 第13回 医療人類学③ 第14回 異文化間介護と多文化共生 第15回 国際協力の現場から		
教科書	『系統看護学講座 基礎分野 文化人類学』医学書院		
参考書	授業の際に配布する		
評価の方法	平常点3割、レポート7割 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元大学教授が文化人類学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	人間工学
担当者 資格、役職等	大学准教授	履修年次 及び学期	2年次 前 期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 人と道具・機械・環境との関わり方を知り、主に物理学・心理学の観点から看護・介護への活用を学ぶ。また看護・介護の現場のみならず日常生活にも必要とされる数学・理科についても学ぶ。</p> <p>【概要】 患者などに優しく医療従事者の手助けになる技術・医用工学（ME; Medical Engineering）機器、人間の能力に相応しい用具・環境の条件を知り、看護の立場からの快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境、ボディメカニックス、ヒューマンエラー・ストレス対策について、物理学・心理学などの観点から学ぶ。またベクトルなど人間工学で必要不可欠な数学も取り扱い、かつ看護・介護の現場のみならず日常生活でも頻繁に使う算数や、簡単な理科も理解するよう学ぶ。</p>		
授業計画	第 1回 人間工学と看護人間工学（看護になぜ人間工学が必要か） 第 2回 安全工学（事故が起きる要因とその対策）、小テスト① 第 3回 人間工学に必要な算数Ⅰ（四則演算、分数の計算） 第 4回 人間工学に必要な数学Ⅱ（三角関数、ベクトル）、小テスト② 第 5回 感覚器官（五感に代表される感覚器官とその限界） 第 6回 脳と心（ヒューマンエラーとストレス対策） 第 7回 効果器（手足の役割と力の発生）、小テスト③ 第 8回 姿勢と動作（安定性、支持基底面、重心） 第 9回 ボディメカニックス基礎Ⅰ（重力、運動法則、テコの原理） 第10回 ボディメカニックス基礎Ⅱ（モーメント、摩擦等） 第11回 ボディメカニックス演習（実習室において実技）、小テスト④ 第12回 看護と工学技術Ⅰ（医療における電気電子・情報・機械の技術） 第13回 看護と工学技術Ⅱ（ME機器の動作と取り扱い等）、小テスト⑤ 第14回 まとめ（小テスト①～⑤の解説等） 第15回 最終試験		
教科書	なし		
参考書	[1] 大河原千鶴子、酒井一博 編集：看護の人間工学、医歯薬出版, ISBN 4-263-23380-8 [2] 小川鑑一 著：基礎人間工学、東京電機大学出版、ISBN4-501-41480-4		
評価の方法	小テスト①～⑤と最終試験で総合的に評価する 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	大学准教授が人間工学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	基礎分野	授業科目	英語Ⅱ
担当者 資格、役職等	英会話講師	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 外来や病棟における看護場面での英会話を教材として、実際に使われる様々な表現を身に着ける。</p> <p>【概要】 基本的な看護表現をしっかりと身に着け、それを使いこなせるように、ペアワークやグループでの練習を通して、学んでいく。</p>		
授業計画	第1回 Self-introduction and Greeting 第2回 Body parts / Symptoms 第3回 Visit to the Clinic 第4回 Injury and Pain 第5回 Medical Examination 第6回 Figure / Vitals 第7回 Delivery 第8回 Children's Health 第9回 Life-related Disease 第10回 Dietary Restrictions 第11回 Dementia 第12回 Admission for Surgery 第13回 Daily Life in the Hospital 第14回 Discharge and Home Care 第15回 Test		
教科書	すぐに対応する医療・看護英語 English Healthcare Communication メジカルビュー社		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	英会話講師が英語について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	演習		
分野	基礎分野	授業科目	保健体育Ⅱ		
担当者 資格、役職等	元中学校体育教師	履修年次 及び学期	2年次 後期		
単位数	1単位	時間数	15時間		
授業目標 及び概要		<p>【目標】</p> <p>運動の楽しさを味わえるように、運動方法の工夫やコミュニケーション能力を高めて、自他の体力増進・健康管理に役立てる。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動のいろいろな楽しみ方を求めて、継続して実践できる方途を探る。 ・運動の楽しさを味わい、仲間と共に協力し合ってスポーツができるようにする。 			
授業計画	第1回 身体ほぐし、ストレッチ運動 第2回 ウォーキング・ジョギングとバスケットボールの実技 第3回 同上 第4回 エアロビクスとソフトバレーの実技 第5回 同上 第6回 ニュースポーツ（ペタンク、フライングディスク等）の実技 第7回 同上 第8回 評価テスト				
教科書	〈用具〉 ラジカセ、ボール（バスケ、ソフトバレー各10ヶずつ） ペタンク（1式） フライングディスク（10ヶ）				
参考書	不要				
評価の方法	授業参加態度、技能面の観察、知識理解面のペーパーテスト 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	元中学校体育教師が保健体育について教育する科目				

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学V
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	2年次 前 期
単位数	運動器分野と合わせて 1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>脳・神経系の構造及び機能の破綻としての病態・検査・治療を理解する。</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経系のしくみと働き、主な症状 2. 脳・神経系の検査、病態、治療について、分かりやすい講義を行う。 		
授業計画	<p>第1回 脳・神経系のしくみと働き（1）</p> <p>第2回 脳・神経系のしくみと働き（2）</p> <p>第3回 脳・神経系の主な症状</p> <p>第4回 脳・神経系の検査</p> <p>第5回 脳・神経系疾患の病態と治療（1）</p> <p>第6回 脳・神経系疾患の病態と治療（2）</p> <p>第7回 脳・神経系疾患の病態と治療（3）</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	成人看護学⑥ 脳・神経 メディカルフレンド社		
参考書	レビュー ブック 2022		
評価の方法	授業参加度・試験50点分（運動器分野とあわせて評価する） 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	脳神経外科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義	
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学V	
担当者 資格、役職等	医師・医師	履修年次 及び学期	2年次 前期～後期	
単位数	脳神経分野と合わせて1単位	時間数	15時間	
【目標】 運動器疾患の病態、検査、治療について学ぶ				
【概要】 運動器疾患患者の診療、そして患者の日常生活への復帰支援、自立支援にあたって運動器疾患看護は重要な役割を担っている。しかしながら、正しい知識なしでは効果的な看護はできないどころか害になることすらある。ここでは運動器疾患看護に必要不可欠な運動器疾患の基礎知識を学習する。				
授業目標 及び概要				
授業計画			第1回 運動器の構造と機能 第2回 運動器疾患の症状と病態生理 第3回 運動器疾患の診断、検査と治療、処置 第4回 外傷性の運動器疾患と診療 第5回 先天性疾患、炎症性疾患、腫瘍性疾患、代謝性疾患 第6回 部位別の運動器疾患 I (神経の疾患、脊椎の疾患) 第7回 部位別の運動器疾患 II (筋・腱の疾患、上肢・下肢の疾患) 第8回 試験	
教科書	成人看護学⑪ 運動器 メヂカルフレンド社			
参考書	標準整形外科学（医学書院）、今日の整形外科治療指針（医学書院）			
評価の方法	授業参加度、試験50点分（脳神経分野とあわせて評価する） 合計60点以上を合格とする。			
授業科目 の教育内容	整形外科医師（2名）が病態学について教育する科目			

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学VI
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	2年次 前 期
単位数	感覚器・皮膚分野と合わせて 1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>腎・泌尿器系、生殖器系の解剖、機能を理解する。さらにそれらの障害によって生じる病態に対して、診断・治療・看護につき習得する。</p> <p>【概要】</p> <p>腎・泌尿器・生殖器の疾患について学び、専門性の高いこれらの領域における看護に対応できるように、病態、検査、治療に対する理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 腎、泌尿器、生殖器（男性）の解剖と機能</p> <p>第2回 腎・泌尿器系の主な症状と検査法</p> <p>第3回 腎、泌尿器系疾患の病態と治療（1）</p> <p>第4回 腎、泌尿器系疾患の病態と治療（2）</p> <p>第5回 腎、泌尿器系疾患の病態と治療（3）</p> <p>第6回 生殖器の主な症状と検査法、病態と治療</p> <p>第7回 生殖器の主な症状と検査法、病態と治療</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	成人看護学⑦ 腎・泌尿器 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度、試験50点分（感覚器、皮膚分野とあわせて評価をする） 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	泌尿器科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学VI
担当者	医師・医師	履修年次	2年次
資格、役職等	医師	及び学期	前 期
単位数	腎泌尿器分野とあわせて 1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>各種感覚器の構造と機能の理解を基礎とし、検査・診断から治療までの過程を把握する。</p> <p>【概要】</p> <p>感覚器系はその生体機能に対応した特殊な形態・構造を有する。各感覚器に特有の構造と機能を理解し、これを基礎として症状・検査法・主要疾患の病態・治療法の概略を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 眼 科：眼の構造と機能、症状、検査 主な眼疾患の病態と治療 I</p> <p>第2回 眼 科：主な眼疾患の病態と治療 II</p> <p>第3回 皮膚科：皮膚の構造と機能、症状、検査、 主な皮膚疾患の病態と治療 I</p> <p>第4回 皮膚科：主な皮膚疾患の病態と治療 II</p> <p>第5回 耳鼻咽喉科：耳の構造と機能、症状、検査、主な耳疾患の病態と治療</p> <p>第6回 耳鼻咽喉科：鼻の構造と機能、症状、検査、主な鼻疾患の病態と治療</p> <p>第7回 耳鼻咽喉科： //</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	成人看護学⑫ 皮膚・眼 成人看護学⑬ 耳鼻咽喉・歯・口腔 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度、試験50点分 配点：眼科15点、皮膚科15点、耳鼻咽喉科20点 合計60点以上を合格とする。 (腎泌尿器分野とあわせて評価する)		
授業科目 の教育内容	眼科医師及び皮膚科医師、耳鼻科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学 I
担当者 資格、役職等	保健所長	履修年次 及び学期	2年次 前 期
単位数	1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護の対象となる人々の健康支援を、政治的・法的・衛生・福祉の側面より理解し、実践する能力を学ぶ。</p> <p>【概要】 公衆衛生は、生活者の健康増進を目的とし、個々の疾病予防に対するアプローチと共に、社会、経済、文化等と密接に関連した住民の健康増進の具体的活動を学ぶ。</p>		
授業計画	第 1回 公衆衛生の理念(目的とその方法) 第 2回 公衆衛生の理念(権利とPHC) 第 3回 公衆衛生の技術(疫学、健康教育) 第 4回 医療の動向と医療保障 第 5回 公衆衛生と国際化 第 6回 地域保健 第 7回 母子保健 第 8回 試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度②公衆衛生 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験・課題提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	保健所長が公衆衛生学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学Ⅱ
担当者 資格、役職等	保健所長	履修年次 及び学期	2年次 前 期
単位数	1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要			
<p>【目標】</p> <p>看護の対象となる人々の健康支援を、政治的・法的・衛生・福祉の側面より理解し、実践する能力を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>公衆衛生は、生活者の健康増進を目的とし、個々の疾病予防に対するアプローチと共に、社会、経済、文化等と密接に関連した住民の健康増進の具体的活動について学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第 1回 学校保健</p> <p>第 2回 成人・老人保健</p> <p>第 3回 精神保健</p> <p>第 4回 難病保健</p> <p>第 5回 生活環境</p> <p>第 6回 産業保健</p> <p>第 7回 感染症・危機管理</p> <p>第 8回 試験</p>			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度②公衆衛生 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験・課題提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	保健所長が公衆衛生学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義																																
分野	専門基礎分野	授業科目	社会福祉Ⅱ																																
担当者 資格、役職等	社会福祉士	履修年次 及び学期	2年次 後期																																
単位数	1 単位	時間数	15時間																																
授業目標 及び概要																																			
<p>【目標】 社会福祉の諸制度を学び、社会福祉のシステム、援助方法、社会資源の活用方法を理解する。</p> <p>【概要】 社会福祉の各分野について現在のかかえている課題と実態を知り具体的な施策について学ぶ。</p>																																			
授業計画																																			
<table> <tr> <td>第 1 回</td> <td>社会福祉の諸制度と施策</td> <td>生活保護</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>"</td> <td>児童福祉</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>"</td> <td>障害者福祉</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>"</td> <td>"</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>"</td> <td>高齢者福祉</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>社会福祉行政</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>社会保障の動向</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				第 1 回	社会福祉の諸制度と施策	生活保護		第 2 回	"	児童福祉		第 3 回	"	障害者福祉		第 4 回	"	"		第 5 回	"	高齢者福祉		第 6 回	社会福祉行政			第 7 回	社会保障の動向			第 8 回	試験		
第 1 回	社会福祉の諸制度と施策	生活保護																																	
第 2 回	"	児童福祉																																	
第 3 回	"	障害者福祉																																	
第 4 回	"	"																																	
第 5 回	"	高齢者福祉																																	
第 6 回	社会福祉行政																																		
第 7 回	社会保障の動向																																		
第 8 回	試験																																		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③社会福祉 医学書院																																		
参考書																																			
評価の方法	授業参加度、試験。 合計60点以上を合格とする。																																		
授業科目 の教育内容	社会福祉士が社会福祉について教育する科目																																		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	関係法規
担当者 資格、役職等	看護師	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要			
<p>【目標】</p> <p>法の知識及び国民の医療・福祉に関する法律を学び、看護師としての公的責任について理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>保健医療の専門職として、今後の業務を行う上で、単に医療上の知識・技術だけでなく、関係法令により行うべきことが規定されていること、職業人としての身分の保証、権利が守られていることを理解する。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回 保健医療と法</p> <p>第 2 回 医事法規</p> <p>第 3 回 保健衛生法規</p> <p>第 4 回 生活衛生法規</p> <p>第 5 回 薬事法規</p> <p>第 6 回 社会福祉関連法規</p> <p>第 7 回 労働関連法規</p> <p>第 8 回 課題</p>			
教科書	看護関係法令 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元看護師が関係法規について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	薬理学Ⅱ
担当者 資格、役職等	薬剤師	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 薬剤の種類と働きを理解し、薬物療法における看護の役割を学ぶ</p> <p>【概要】 各疾病の治療薬について、その作用機序と分類、使い方、副作用・相互作用を理解する。さらに臨床での看護上の留意点を学ぶ</p>		
授業計画	<p>第1回 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬</p> <p>第2回 中枢神経系作用薬（I）：麻酔、疼痛、不眠症、神経症、うつ病</p> <p>第3回 中枢神経系作用薬（II）：てんかん、パーキンソン病、認知症</p> <p>第4回 循環器系作用薬（I）：降圧薬、循環器薬</p> <p>第5回 循環器系作用薬（II）：腎臓作用薬、血液・造血系作用薬</p> <p>第6回 抗炎症薬：治療薬</p> <p>第7回 呼吸器系作用薬：気管支喘息、呼吸器感染症、慢性呼吸不全 睡眠時無呼吸症候群、びまん性汎細気管支炎</p> <p>第8回 消化器系作用薬：胃炎、胃・十二指腸潰瘍、食欲不振、消化不良 嘔吐、便秘、下痢</p> <p>第9回 ホルモン・生殖器系作用薬：ホルモン系作用薬、生殖器系作用薬</p> <p>第10回 抗感染症薬（I）：抗生物質</p> <p>第11回 抗感染症薬（II）：消毒薬</p> <p>第12回 抗悪性腫瘍薬（I）：基礎知識、抗がん剤分類</p> <p>第13回 抗悪性腫瘍薬（II）：抗がん剤各論、看護上の留意点</p> <p>第14回 救急治療薬：救急蘇生時、救急・急変時の薬物、薬物中毒</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	わかりやすい 薬理学 第2版 (ヌーヴェルヒカリ)		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	薬剤師が薬理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習																														
分野	専門分野 I	授業科目	基礎看護学援助論 II																														
担当者	専任教員	履修年次	2年次																														
資格、役職等	(臨床経験11年)	及び学期	前期																														
単位数	1 単位	時間数	30時間																														
授業目標 及び概要	<p>【目標】 フィジカルアセスメントと教育指導の基礎を理解しその技術を習得する。</p> <p>【概要】 フィジカルアセスメントから得た情報をアセスメントし看護援助につなげる基礎技術を学ぶ。看護の道具は自分自身をキーワードに気づきを大切にしていく。 また、対象に必要な特定の保健行動や健康増進の方法を、対象自身やその家族たちが学んだり、身につけたりすることを援助するための基本的技術としての指導技術を学ぶ。</p>																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回 看護における教育指導とは</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>第2回 フィジカルアセスメントとは</td> <td>(講義・演習)</td> </tr> <tr> <td>第3回 フィジカルアセスメントの基本技術</td> <td>(講義・演習)</td> </tr> <tr> <td>第4回 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>第5回 " "</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>第6回 消化器系のフィジカルアセスメント</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>第7回 " "</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>第8回 脳神経・感覚器・運動機能のフィジカルアセスメント</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>第9回 " "</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>第10回 " "</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>第11回 友人Aさんのフィジカルアセスメント</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>第12回 フィジカルアセスメントの活用</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>第13回 フィジカルアセスメントの練習</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>第14回 " "</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>第15回 試験</td> <td></td> </tr> </table>	第1回 看護における教育指導とは	(講義)	第2回 フィジカルアセスメントとは	(講義・演習)	第3回 フィジカルアセスメントの基本技術	(講義・演習)	第4回 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント	(講義)	第5回 " "	(演習)	第6回 消化器系のフィジカルアセスメント	(講義)	第7回 " "	(演習)	第8回 脳神経・感覚器・運動機能のフィジカルアセスメント	(講義)	第9回 " "	(演習)	第10回 " "	(演習)	第11回 友人Aさんのフィジカルアセスメント	(演習)	第12回 フィジカルアセスメントの活用	(講義)	第13回 フィジカルアセスメントの練習	(演習)	第14回 " "	(演習)	第15回 試験			
第1回 看護における教育指導とは	(講義)																																
第2回 フィジカルアセスメントとは	(講義・演習)																																
第3回 フィジカルアセスメントの基本技術	(講義・演習)																																
第4回 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント	(講義)																																
第5回 " "	(演習)																																
第6回 消化器系のフィジカルアセスメント	(講義)																																
第7回 " "	(演習)																																
第8回 脳神経・感覚器・運動機能のフィジカルアセスメント	(講義)																																
第9回 " "	(演習)																																
第10回 " "	(演習)																																
第11回 友人Aさんのフィジカルアセスメント	(演習)																																
第12回 フィジカルアセスメントの活用	(講義)																																
第13回 フィジカルアセスメントの練習	(演習)																																
第14回 " "	(演習)																																
第15回 試験																																	
教科書	新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術 I メヂカルフレンド社																																
参考書	はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド社																																
評価の方法	授業参加度、課題提出、試験（筆記・技術）により総合評価する。 合計60点以上を合格とする。																																
授業科目 の教育内容	看護師として病院などで臨床経験を持つ専任教員が基礎看護学援助論について教育する科目																																

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学援助論Ⅰ
担当者	専任教員	履修年次	2年次
資格、役職等	(臨床経験5年)	及び学期	前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>機能障害をもつ成人期にある対象者への看護を、治療・処置の視点から理解することが出来る。</p> <p>【概要】</p> <p>機能障害をもつ患者に対する看護をがんの治療・処置を軸に学習する。</p> <p>がんの治療・処置の視点から患者の特徴と看護を学び、主に周手術期におけるアセスメントについて理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 がんの治療と看護</p> <p>第2回 手術療法を受ける患者の看護 -1- 手術療法の特徴と基礎知識 (麻酔・手術侵襲と生体反応)</p> <p>第3回 手術療法を受ける患者の看護 -2- 手術中の看護 (演習)</p> <p>第4回 手術療法を受ける患者の看護 -3- 手術前の看護</p> <p>第5回 手術療法を受ける患者の看護 -4- 手術後のアセスメントと看護</p> <p>第6回 放射線療法を受ける患者の看護</p> <p>第7回 化学療法を受ける患者の看護</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院)		
参考書	高齢者と成人の周手術期看護 術中/術後の生体反応と急性期看護 (医歯出版株式会社)		
評価の方法	課題10点・終講時試験90点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	看護師・看護師・理学療法士 専任教員（臨床経験16年）	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>成人期に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>呼吸機能障害・循環機能障害における患者の、症状とアセスメントの視点と看護、治療処置と看護、事例を通して機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 1. 呼吸機能障害をもつ成人の看護 1) 呼吸機能障害と日常生活</p> <p>第2回 2) 呼吸機能障害の症状と看護</p> <p>第3回</p> <p>第4回 3) 呼吸機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第5回 トピックス：呼吸リハビリテーションの実際</p> <p>第6回 4) 呼吸機能障害のある患者の看護 事例：肺がん</p> <p>第7回 2. 循環機能障害をもつ成人の看護 1) 循環機能障害と日常生活</p> <p>第8回 2) 循環機能障害の症状と看護</p> <p>第9回 3) 循環機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第10回 4) 循環機能障害のある患者の看護</p> <p>第11回 事例展開：急性心筋梗塞（急性期）</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	成人看護学② 呼吸器 成人看護学③ 循環器 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度 課題 試験 配点：呼吸・リハ40点、循環器40点、事例展開20点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	認定看護師2名及び理学療法士、また看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学援助論Ⅲ
担当者	看護師・看護師	履修年次	2年次
資格、役職等	専任教員（臨床経験5年）	及び学期	前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>成人期に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>消化吸收機能障害・栄養代謝機能障害における患者の、症状とアセスメントの視点と看護、治療処置と看護、事例を通して機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 1. 消化吸收機能障害をもつ成人の看護 1) 消化吸收機能障害と日常生活</p> <p>第2回 2) 消化吸收機能障害の症状と看護</p> <p>第3回 3) 消化吸收機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第4回 4) 消化吸收機能障害のある患者の看護</p> <p>第5回 トピックス：ストーマケアの講義と演習</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 2. 栄養代謝機能障害を持つ成人の看護 1) 栄養代謝機能障害と日常生活</p> <p>第8回 2) 栄養代謝機能障害の症状と看護</p> <p>第9回 3) 栄養代謝機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第10回 4) 栄養代謝機能障害のある患者の看護</p> <p>第11回 事例展開：胃がん</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	成人看護学⑤ 消化器 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度、課題、試験 配点：消化吸收機能障害40点、栄養代謝機能障害40点 事例展開20点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師（2名）および看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学援助論Ⅳ
担当者	看護師・看護師	履修年次	2年次
資格、役職等	専任教員（臨床経験12年）	及び学期	前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>成人期に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>血糖調節機能障害・PH調節機能障害・身体防御機能障害における患者の症状とアセスメントの視点と看護、治療処置と看護、事例を通して機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第2回 1. 血糖調節機能障害を持つ成人の看護 1) 血糖調節機能障害と日常生活</p> <p>第3回 2) 血糖調節機能障害の症状と看護</p> <p>第5回 3) 血糖調節機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第7回 4) 血糖調節機能障害のある患者の看護</p> <p>第10回 5) 血糖調節機能障害のある患者の看護</p> <p>第1回 2. PH調節機能障害をもつ成人の看護 1) PH調節機能障害と日常生活</p> <p>第4回 2) PH調節機能障害の症状と看護</p> <p>第6回 3) PH調節機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第8回 トピックス：血液透析</p> <p>第11回 4) PH調節機能障害のある患者の看護 事例：慢性腎不全 血液透析</p> <p>第9回 3. 身体防御機能障害をもつ成人の看護 1) 身体防御機能障害と日常生活</p> <p>第12回 2) 身体防御機能障害の症状と看護</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 3) 身体防御機能障害の検査・治療・処置と看護</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	<p>成人看護学⑧ 内分泌／栄養代謝</p> <p>成人看護学⑦ 腎・泌尿器</p> <p>成人看護学⑨ 感染症／アレルギー・免疫／膠原病</p> <p>成人看護学④ 血液・造血器</p>		メディカルフレンド社
参考書			
評価の方法	授業態度 試験 配点：血液調節機能障害40点、PH調節機能障害30点、身体防御機能障害30点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	認定看護師2名及び看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学援助論V
担当者	看護師・看護師	履修年次	2年次
資格、役職等	専任教員（臨床経験10年）	及び学期	後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>成人期に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>脳神経機能・性機能が傷害された場合および癌と疼痛のある患者の症状とアセスメントの視点と看護、治療処置と看護、事例を通して機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>1. 脳神経機能障害をもつ成人の看護（5回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳神経機能障害と日常生活 2) 脳神経機能障害の症状と看護 3) 脳神経機能障害の検査・治療・処置を伴う看護 4) 脳神経機能障害のある患者の看護 <p>事例：くも膜下出血の急性期、脊髄損傷 危機と病気の受容</p> <p>2. 性機能障害をもつ成人の看護（4回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 性機能障害と日常生活 2) 性機能障害の症状と看護 3) 性機能障害のある患者の検査・治療・処置を伴う看護 4) 性機能障害のある患者の看護 事例：乳癌、前立腺肥大 <p>3. 痛みの看護（5回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 痛みについて 緩和ケアについて 2) がんと治療法 3) がんと疼痛 4) がんと生活 5) がん患者の看護 事例を通じた学び <p>第15回 試験</p>		
教科書	<p>成人看護学⑥ 脳・神経 メヂカルフレンド社</p> <p>成人看護学⑦ 腎・泌尿器 メヂカルフレンド社</p> <p>成人看護学⑩ 女性生殖器 メヂカルフレンド社</p> <p>別巻 緩和ケア 医学書院</p>		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・試験</p> <p>配点：脳神経機能障害30点、痛みの看護40点、性機能障害30点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	認定看護師及び看護師、看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学援助論Ⅰ
担当者	専任教員	履修年次	2年次
資格、役職等	(臨床経験12年)	及び学期	前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>疾病を持つ高齢者の理解と基本対応について学び、高齢者を対象とした看護の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>看護過程を開拓するにあたっての高齢者の特徴を理解し、身体的・心理的・社会的アセスメントについて学習する。高齢者の健康上の課題を解決するために、健康段階別看護、治療処置別看護を学ぶ。これらの学習を基に高齢者の事例から、高齢者の看護のアセスメントの視点を学習する。</p> <p>対象となる高齢者とその家族がよりよい死を迎えるための看護について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 高齢者に特有な症候のアセスメントと看護</p> <p>第2回 高齢者に特有な症候のアセスメントと看護</p> <p>第3回 排尿障害に伴う治療方法と看護</p> <p>第4回 事例から排泄に焦点を絞ったアセスメントの視点</p> <p>第5回 高齢者の療養生活の支援 (薬物療法・手術療法・入院時と退院に向けての看護))</p> <p>第6回 高齢者の尊厳を支える看取り 高齢者を介護する家族の支援</p> <p>第7回 高齢者のリスクマネジメント (医療安全・災害)</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論	医学書院	医学書院
参考書			
評価の方法	授業参加度 筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学援助論Ⅱ
担当者	看護師・看護師	履修年次	2年次
資格、役職等	看護師・看護師	及び学期	後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>健康障害を持つ高齢者が生活機能を維持できる看護の方法を学習する。</p> <p>【概要】</p> <p>呼吸機能障害看護、循環機能障害看護、消化吸収機能障害看護、身体防御機能障害看護、感覚機能障害看護について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>(4回) 呼吸機能障害の症状と看護 呼吸機能障害の症状と看護 肺結核、慢性呼吸不全の看護</p> <p>(5回) 消化器機能障害の症状と看護 消化器機能障害の症状と看護 消化器機能障害の症状と看護 消化器機能障害の症状と看護 身体防御機能障害の症状と看護（身体防御と易感染） 身体防御機能障害の症状と看護</p> <p>(3回) 循環器機能障害の症状と看護「慢性心不全」 循環器機能障害の症状と看護 循環器機能障害の症状と看護</p> <p>(2回) 感覚機能障害の症状と看護「白内障」 感覚機能障害の症状と看護「難聴」</p> <p>第15回 筆記試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論	医学書院	医学書院
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度 配点：呼吸機能障害30点、消化器機能障害40点、循環器機能障害20点、 感覚機能障害10点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	認定看護師4名が老年看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学援助論Ⅲ
担当者	看護師・看護師・看護師	履修年次	2年次
資格、役職等	理学療法士 専任教員（臨床経験12年）	及び学期	後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>健康障害を持つ高齢者（脳神経機能障害看護、運動機能障害看護、認知症看護）への看護の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>老年看護学概論、老年援助論Ⅰ・Ⅱをふまえ、脳神経機能障害看護、運動機能障害看護、認知症看護を学び、ペーパーペイントで事例を展開し、健康障害を持つ高齢者への看護について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>(3回) 脳神経機能障害看護</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>(3回) 運動機能障害看護</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>(1回) ROM訓練</p> <p>(3回) 認知症患者の看護</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>(4回) 事例：認知症</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論	医学書院 医学書院	
参考書			
評価の方法	筆記試験・授業参加度 配点：脳神経機能障害20点、運動機能障害30点、認知症患者の看護20点、 事例（認知症）30点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	認定看護師2名及び看護師、理学療法士、看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学援助論Ⅰ
担当者	助産師	履修年次	2年次
資格、役職等	専任教員（臨床経験22年）	及び学期	前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>妊娠期・分娩期にある対象を理解し、対象が健康な妊娠期を送り、安全安心な分娩を迎えるための看護を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>女性のライフサイクルの中で身体・心理・社会的な変化が特に激しいマタニティーサイクルについて母性看護学援助論で学習する。</p> <p>援助論Ⅰでは、マタニティーサイクルの妊娠期・分娩期にある対象を3側面から捉え、必要な看護について学習する。母性看護学を学んでいくうえで、女性の体の中で日々成長発達していく胎児についても母体とともに捉えていかなければならぬ。2つの命を同時に捉えることができ、安全安心な分娩を迎えるためにどのような看護が必要か考える。</p> <p>また、異常妊娠・分娩の看護について臨地実習で遭遇しそうなハイリスク妊娠・感染症・帝王切開術等の異常について、病態生理を踏まえながら、学習する。</p>		
授業計画	<p>第1回 妊娠とは 妊娠期における母体の生理的変化</p> <p>第2回 胎児の生理的変化 胎盤と羊水の機能</p> <p>第3回 妊娠期の心理・社会的特徴</p> <p>第4回 妊娠期の観察とアセスメント 妊娠初期の妊婦健康診査と保健指導</p> <p>第5回 妊娠中期の妊婦健康診査と保健指導</p> <p>第6回 妊娠末期の妊婦健康診査と保健指導</p> <p>第7回 妊娠の異常とその看護 ハイリスク妊娠への看護 異常妊娠への看護</p> <p>第8・9回 分娩とは 分娩3要素 正常分娩の経過 産婦と胎児・家族のアセスメント</p> <p>第10・11回 分娩各期の産婦とその家族への看護</p> <p>第12回 異常経過のみられる産婦の看護</p> <p>第13・14回 妊娠・分娩期の看護の実際（演習）</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②		
参考書	病気が見える 10 「産科」 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論		
評価の方法	筆記試験・出席状況・演習参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	助産師及び助産師として病院での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 妊娠、分娩、産褥期および新生児の異常経過の学習を通じて母性看護の重要性を学ぶ。</p> <p>【概要】 不妊症を学ぶことにより、妊娠整理の理解を深める。医師の診察が求められる異常妊娠、分娩、産褥について医師の立場から解説し、それぞれの対象に対しどのような看護が求められるか一緒に考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 出生前診断、不妊症の診療</p> <p>第2回 妊娠の異常 ハイリスク妊娠・DM合併・心疾患・血液疾患</p> <p>第3回 妊娠の異常 感染症・妊娠悪阻・妊娠高血圧症</p> <p>第4回 妊娠の異常 多胎妊娠・流早産・子宮外妊娠</p> <p>第5回 分娩の異常 分娩3要素の障害</p> <p>第6回 分娩の異常 帝王切開・吸引分娩・分娩時の出血</p> <p>第7回 産褥の異常、新生児の異常 産後出血・分娩外傷・子宮復古不全 精神障害・新生児仮死・低体重児</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学（2） 母性看護学各論 医学書院		
参考書			
評価の方法	試験、出席日数、授業態度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	産婦人科医師が母性看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学援助論Ⅲ
担当者	助産師	履修年次	2年次
資格、役職等	専任教員（臨床経験22年）	及び学期	後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>産褥期・新生児期にある対象の特徴を理解し、対象がもてる力を最大限活用でき、良好な生活を送るための看護を学ぶ。</p>		
	<p>【概要】</p> <p>産褥期と新生児における看護を学習する。産褥期は、分娩を終えた身体が、乳汁分泌などの新たな身体的変化と非妊娠時の状態に戻っていく変化を伴いながら、婦婦と児との愛情と情緒をより強く形成し、母親として適応していく段階である。ここでは、婦婦が身体的・心理的・社会的にも良好に産褥期を経過し、これから育児に向かうために必要な支援を学ぶ。新生児は、新生児の形態・機能的理解をし、この時期を良好に経過するために必要な支援を学ぶ。また、産褥期・新生児を理解するために、愛着形成過程・親役割獲得過程を支える援助について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第 1回 産褥とは</p> <p>第 2回 産褥期の身体・心理・社会的特徴</p> <p>第 3回 新生児とは</p> <p>第 4回 新生児の特徴・母子相互作用</p> <p>第 5回 産褥期・新生児の観察とアセスメント</p> <p>第 6回 事例展開</p> <p>第 7回 "</p> <p>第 8回 "</p> <p>第 9回 "</p> <p>第 10回 母と子に必要な看護援助の実際（演習）</p> <p>第 11回 "</p> <p>第 12回 母と子に対する支援とその実際</p> <p>第 13回 "</p> <p>第 14回 婦婦への保健指導の実際（発表）</p> <p>第 15回 試験</p>		
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②		
参考書	病気が見える 10 「産科」 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論		
評価の方法	筆記試験・提出課題・出席状況・演習及びグループワークの参加度から総合的に評価。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	助産師及び助産師として病院での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学援助論Ⅰ
担当者	専任教員	履修年次	2年次
資格、役職等	(臨床経験11年)	及び学期	前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>健康問題のある小児期の対象とその家族を理解し、子どもに多い疾患の病態・症状・診断検査を学び、健康段階に応じた看護を理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>患児の理解、患児を持つ家族の理解、健康段階別看護、症状別看護を学ぶ。患児がどのように疾病を受け止め、疾病に対応して回復過程をたどるのか、また、発達に及ぼす影響は何か、さらに、小児の疾患に伴う家族の悲しみにどう寄り添い支援するのかなど小児臨床看護における総論を学ぶ。また、子どもと家族を取り巻く社会の特徴から育児環境を考え、地域の医療、看護の果たす役割と援助について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第 1回 子どもの病気の理解</p> <p>第 2回 入院している子どもをもつ家族への看護</p> <p>第 3回 入院が子どもに及ぼす影響</p> <p>第 4回 小児外来を受診する子どもと家族への看護</p> <p>第 5回 検査・処置時の看護</p> <p>第 6回 症状別看護 一般状態、発熱、発疹</p> <p>第 7回 " 下痢、嘔吐、脱水</p> <p>第 8回 " 呼吸困難、痙攣、</p> <p>第 9回 急性期にある子どもと家族 周手術期にある子どもと家族</p> <p>第10回 慢性期にある子どもと家族</p> <p>第11回 在宅で療養生活を送る子どもと家族</p> <p>第12回 子ども特有の看護技術の実際 (演習)</p> <p>第13回 " (グループワーク)</p> <p>第14回 " (まとめ)</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社 小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	筆記試験・出席状況・演習参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が小児看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義		
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学援助論Ⅱ		
担当者	医師	履修年次	2年次		
資格、役職等	医師・医師	及び学期	後期		
単位数	1 単位	時間数	15時間		
授業目標 及び概要		<p>【目標】 小児科に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 小児の機能障害の症状・検査・治療、主な疾患について理解し、患児への看護の基礎知識を学ぶ。</p>			
授業計画		第1回 呼吸機能障害（感染症含む） 第2回 循環機能障害（感染症含む） 第3回 消化・吸収機能障害（感染症含む） 第4回 内分泌機能障害 免疫異常(アレルギー・自己免疫疾患) 第5回 血液・腫瘍・腎・泌尿器疾患 第6回 中枢神経疾患・運動器疾患 第7回 先天異常・新生児 第8回 試験			
教科書	小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 メディカルフレンド社				
参考書					
評価の方法	授業参加度・試験 合計60点以上を合格とする。				
授業科目 の教育内容	小児科医師3名が小児看護学援助論について教育する科目				

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学援助論Ⅲ
担当者	看護師・大学准教授	履修年次	2年次
資格、役職等	看護師	及び学期	後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>小児に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>小児期に特徴的な機能障害をとりあげ、発達への援助と家族への支援を包括した看護のあり方を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>(6回) 循環機能障害看護（先天性心疾患、川崎病他）</p> <p>血糖調節機能障害看護（糖尿病）</p> <p>身体防御機能障害看護（白血病）</p> <p>P H調節機能障害看護（ネフローゼ症候群）</p> <p>NICUの看護（2回）</p> <p>(1回) 心身、発達障害看護</p> <p>(6回) 呼吸機能障害看護（肺炎の種類、喘息、気管支炎など）</p> <p>脳神経機能障害看護</p> <p>悪性腫瘍</p> <p>第14回 試験</p> <p>・高度医療の現場を知る（2年次 長野県立こども病院見学）</p>		
教科書	小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 メディカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験・課題評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師2名と大学准教授が小児看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義	
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学援助論Ⅰ	
担当者 資格、役職等	看護師	履修年次 及び学期	2年次 前期	
単位数	1 単位	時間数	30時間	
【目標】 精神的健康に問題をもつ対象とその家族を理解し、問題状況への介入から地域社会生活への適応に向けた精神看護援助技術および精神障がい者とその家族や周囲を対象とした様々な援助技法（あるいは回復を助ける方法）を学ぶ。				
【概要】 精神機能障がいのある患者への看護を総論的に学ぶ。精神看護学において看護の核は感情であり、その感情を手がかりにして自己のコミュニケーションを振り返り、自己洞察すると共に看護援助に必要な自己活用について考えることを学びます。また、身体と心は密接なつながりを持ち、精神看護学においても身体をアセスメントしケアする高度な知識とスキルを学びます。精神障がいのある患者は、自由や権利を制限せざるをえない状況があり、精神障がいを抱えた人の尊厳をどう守るのか考えを深め学びます。				
授業目標 及び概要				
授業計画			第1回 こころを病むとはどんなことか 第2回 ケアの人間関係：ケアの前提・原則・ケアの方法 第3回 ケアの人間関係：関係のアセスメント（プロセスレコード） 第4回 ケアの人間関係：「患者－看護師関係」の構築 第5回 入院治療と看護の役割①：治療的環境 第6回 入院治療と看護の役割②：人権と安全を守る 第7回 精神科治療と看護の役割①：精神科における倫理的葛藤 第8回 精神科治療と看護の役割②：薬物療法・心理療法・集団療法 第9回 地域における看護の役割①：地域精神保健福祉と社会参加、その課題 第10回 地域における看護の役割②：地域生活支援の実際 第11回 精神障がいをもつ対象の家族（大切な人）への看護 第12回 精神科以外での看護師の役割①：リエゾン精神看護 第13回 精神科以外での看護師の役割②：災害と精神看護、司法精神医学 第14回 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 第15回 単位認定試験	
教科書			系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院	
参考書			武井麻子 精神看護学ノート 医学書院 他適宜提示します	
評価の方法			筆記試験・レポート・課題・授業参加度 合計60点以上を合格とする。	
授業科目 の教育内容			看護師が精神看護学援助論について教育する科目	

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 精神機能障害の症状・診断と検査・主な精神障害について理解する。</p> <p>【概要】 精神の機能障害の症状、主な疾患について理解し、対象への看護の基礎知識を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回：精神症状</p> <p>第2回：中枢神経症状</p> <p>第3回：精神障害の診断と検査の種類</p> <p>第4回：各種治療法</p> <p>第5回：主な疾患の診療①</p> <p>第6回：主な疾患の診療②</p> <p>第7回：主な疾患の診療③</p> <p>第8回：試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	精神科医師が精神看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学援助論Ⅲ
担当者	看護師・看護師	履修年次	2年次
資格、役職等	専任教員	及び学期	後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>1. 生物学的・心理学的・社会文化的から対象を理解する。 2. 精神症状により影響を受けている対象の状態を3つの視点からアセスメントし、その人らしく生きる力を支えるための看護について理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>事例から精神障がい、精神症状により日常生活に支障をきたしている対象のこころの健康をアセスメントする。対象の発達段階や生活様式、生活史、社会背景や環境など様々な危機やストレスと関連させ対象の理解を深める。</p>		
授業計画	<p>1. 精神障がい者が抱える日常生活に支障をきたす症状の看護</p> <p>第1回 看護のプロセス</p> <p>第2回 症状と看護</p> <p>第3回 症状と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ①不安状態 ②幻覚・妄想 ③精神運動興奮状態 <p>第4回 抑うつ</p> <p>第5回 脅迫状態</p> <p>第6回 拒絶状態</p> <p>第7回 自閉状態</p> <p>2. 看護過程</p> <p>第8回～第12回</p> <p>精神症状のある患者の看護過程（個人・グループワーク）</p> <p>事例：統合失調症、双極性障害</p> <p>第13・第14回</p> <p>精神機能障害のある患者の援助技術としてのコミュニケーション</p> <p>第15回 単位認定試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ	精神看護の基礎 精神看護学の展開	精神看護学（1） 精神看護学（2）（医学書院）
参考書	適宜紹介します		
評価の方法	筆記試験・課題・授業参加度から総合的に評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	専門看護師及び精神科看護師、看護師として病院等での臨床経験を持つ専任教員が精神看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義																																												
分野	統合分野	授業科目	在宅看護論概論																																												
担当者	専任教員	履修年次	2年次																																												
資格、役職等	(臨床経験12年)	及び学期	前期																																												
単位数	1 単位	時間数	30時間																																												
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>地域で生活する人々の健康問題を解決・改善するための制度と看護師の役割について理解する。在宅で療養する対象とその家族の特徴を理解する。特に訪問看護に関する知識を身につける。</p> <p>【概要】</p> <p>在宅療養を取り巻く環境と社会的背景からその必要性を理解する。在宅看護の対象である本人とその家族について理解するとともに、在宅療養を支える保険制度について理解する。在宅医療を地域の医療との関連を含めて捉え、地域での看護の役割や看護活動について学ぶ。また、地域での医療、在宅看護が保健・医療・福祉の連携と協働によって成立することを学ぶ。</p>																																														
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td><td>在宅看護とはなにか</td><td>なぜ在宅看護を学ぶのか・社会の変化とニーズ</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>地域社会の理解と在宅ケアシステム</td><td></td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>地域社会の理解（身近な地域の理解）①（個人ワーク）</td><td></td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>在宅看護に関する法的基盤と社会制度</td><td></td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>在宅看護の対象</td><td></td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>地域社会の理解（身近な地域の理解）②（グループワーク・個人ワーク）</td><td></td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>地域社会の理解（身近な地域の理解）③（課題の発表・まとめ）</td><td></td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>地域社会の理解（身近な地域の理解）④（課題の発表・まとめ）</td><td></td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>在宅看護と家族1</td><td>家族のとらえ方</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>在宅看護と家族2</td><td>家族支援のポイント</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>在宅療養の成立条件</td><td>在宅サポートシステム 多職種との協働</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>在宅での看護活動</td><td>訪問看護システム 医療安全 災害対策</td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>在宅での看護活動</td><td>在宅看護における権利保障</td></tr> <tr> <td>第14回</td><td>在宅での看護活動</td><td>倫理的配慮（看護倫理）</td></tr> <tr> <td>第15回</td><td>試験</td><td></td></tr> </table>	第1回	在宅看護とはなにか	なぜ在宅看護を学ぶのか・社会の変化とニーズ	第2回	地域社会の理解と在宅ケアシステム		第3回	地域社会の理解（身近な地域の理解）①（個人ワーク）		第4回	在宅看護に関する法的基盤と社会制度		第5回	在宅看護の対象		第6回	地域社会の理解（身近な地域の理解）②（グループワーク・個人ワーク）		第7回	地域社会の理解（身近な地域の理解）③（課題の発表・まとめ）		第8回	地域社会の理解（身近な地域の理解）④（課題の発表・まとめ）		第9回	在宅看護と家族1	家族のとらえ方	第10回	在宅看護と家族2	家族支援のポイント	第11回	在宅療養の成立条件	在宅サポートシステム 多職種との協働	第12回	在宅での看護活動	訪問看護システム 医療安全 災害対策	第13回	在宅での看護活動	在宅看護における権利保障	第14回	在宅での看護活動	倫理的配慮（看護倫理）	第15回	試験		
第1回	在宅看護とはなにか	なぜ在宅看護を学ぶのか・社会の変化とニーズ																																													
第2回	地域社会の理解と在宅ケアシステム																																														
第3回	地域社会の理解（身近な地域の理解）①（個人ワーク）																																														
第4回	在宅看護に関する法的基盤と社会制度																																														
第5回	在宅看護の対象																																														
第6回	地域社会の理解（身近な地域の理解）②（グループワーク・個人ワーク）																																														
第7回	地域社会の理解（身近な地域の理解）③（課題の発表・まとめ）																																														
第8回	地域社会の理解（身近な地域の理解）④（課題の発表・まとめ）																																														
第9回	在宅看護と家族1	家族のとらえ方																																													
第10回	在宅看護と家族2	家族支援のポイント																																													
第11回	在宅療養の成立条件	在宅サポートシステム 多職種との協働																																													
第12回	在宅での看護活動	訪問看護システム 医療安全 災害対策																																													
第13回	在宅での看護活動	在宅看護における権利保障																																													
第14回	在宅での看護活動	倫理的配慮（看護倫理）																																													
第15回	試験																																														
教科書	～家族看護を基盤とした～ 在宅看護論 I 概論編		日本看護協会出版会																																												
参考書	国民衛生の動向																																														
評価の方法	出席時間、授業態度、グループワーク参加度、課題の内容、筆記試験 合計60点以上を合格とする。																																														
授業科目 の教育内容	看護師として病院などの臨床経験を持つ専任教員が在宅看護論概論について教育する科目																																														

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習		
分野	統合分野	授業科目	在宅看護論援助論 I		
担当者	教務主任	履修年次	2年次		
資格、役職等	(臨床経験15年)	及び学期	後期		
単位数	1 単位	時間数	30時間		
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>在宅で療養する対象とその家族を理解し、あらゆる健康段階・治療処置・機能障害への看護の実践を学ぶ。</p>				
	<p>【概要】</p> <p>在宅における対象は、あらゆる健康段階にあり、生活の一部に健康障害が共存していることを理解する。健康障害を持ち在宅で生活する対象に対し、在宅酸素療法、胃瘻等近年在宅療養で増加している項目を取り入れ学内実習・事例を通して学ぶ。また、在宅看護の対象である家族に対し、家族機能を踏まえた援助の方法を学ぶ。</p>				
授業計画	第1回～5回	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で療養生活を送る対象とその家族の理解 ALS 認知症 精神疾患 小児 			
	第6回・7回	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養摂取に問題のある対象 食事療法 経管栄養法（演習）中心静脈栄養法 			
授業計画	第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄経路に問題のある対象 人工肛門 人工膀胱 			
	第9回・10回	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸に問題のある対象 在宅酸素療法 人工呼吸器 気管内吸引（演習） 			
授業計画	第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物療法を受けている対象 在宅輸液管理 服薬管理 			
	第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・体位保持に問題のある対象 褥瘡予防・処置 			
授業計画	第13回・14回	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期にある対象 在宅での看取り 意思決定支援 			
	第15回目	<ul style="list-style-type: none"> ・試験 			
教科書	<p>～家族看護を基盤とした～ 在宅看護論 I 概論編 II 実践編</p> <p>日本看護協会出版会</p>				
参考書					
評価の方法	<p>授業参加度（出席数、グループワーク含）・課題提出・演習参加度・筆記試験</p> <p>合計60点以上を合格とする。</p>				
授業科目 の教育内容	<p>看護師として病院、訪問看護などの臨床経験を持つ教務主任が在宅看護論概論について教育する科目</p>				

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習																																								
分野	統合分野	授業科目	在宅看護論援助論Ⅱ																																								
担当者	教務主任	履修年次	2年次																																								
資格、役職等	(臨床経験15年)	及び学期	前期																																								
単位数	1 単位	時間数	30時間																																								
授業目標 及び概要																																											
<p>【目標】</p> <p>在宅で療養する対象と家族のニーズを充足するための基本技術・日常生活援助技術を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>在宅で療養する対象・家族の生活習慣や生活リズムを尊重した援助の在り方を学ぶ。既習の看護技術を基盤に在宅における援助の方法を学ぶ。</p>																																											
授業計画																																											
<table> <tbody> <tr> <td>第 1 回</td> <td>・訪問看護の基本技術</td> <td>訪問時のマナー 面接技術</td> <td></td></tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td></td> <td>初回訪問の実際</td> <td></td></tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td></td> <td>〃</td> <td>(GW ロールプレイ)</td></tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>・日常生活援助</td> <td>食事</td> <td></td></tr> <tr> <td>第 5 回～7回</td> <td></td> <td>排泄 膀胱留置カテーテル・導尿・摘便 (演習)</td> <td></td></tr> <tr> <td>第 8 回～10回</td> <td></td> <td>清潔 口腔ケア 入浴介助 (演習) フットケア (演習) 洗髪 (演習)</td> <td></td></tr> <tr> <td>第 11回</td> <td></td> <td>移動</td> <td></td></tr> <tr> <td>第 12～13回</td> <td></td> <td>福祉用具 (見学)</td> <td></td></tr> <tr> <td>第 14回</td> <td></td> <td>移動・福祉用具 (演習)</td> <td></td></tr> <tr> <td>第 15回</td> <td>試験</td> <td></td> <td></td></tr> </tbody> </table>				第 1 回	・訪問看護の基本技術	訪問時のマナー 面接技術		第 2 回		初回訪問の実際		第 3 回		〃	(GW ロールプレイ)	第 4 回	・日常生活援助	食事		第 5 回～7回		排泄 膀胱留置カテーテル・導尿・摘便 (演習)		第 8 回～10回		清潔 口腔ケア 入浴介助 (演習) フットケア (演習) 洗髪 (演習)		第 11回		移動		第 12～13回		福祉用具 (見学)		第 14回		移動・福祉用具 (演習)		第 15回	試験		
第 1 回	・訪問看護の基本技術	訪問時のマナー 面接技術																																									
第 2 回		初回訪問の実際																																									
第 3 回		〃	(GW ロールプレイ)																																								
第 4 回	・日常生活援助	食事																																									
第 5 回～7回		排泄 膀胱留置カテーテル・導尿・摘便 (演習)																																									
第 8 回～10回		清潔 口腔ケア 入浴介助 (演習) フットケア (演習) 洗髪 (演習)																																									
第 11回		移動																																									
第 12～13回		福祉用具 (見学)																																									
第 14回		移動・福祉用具 (演習)																																									
第 15回	試験																																										
教科書	～家族看護を基盤とした～ 在宅看護論 I 概論編 II 実践編																																										
	日本看護協会出版会																																										
参考書																																											
評価の方法	授業参加度（出席数、グループワーク含）・課題提出・演習参加度・筆記試験 合計60点以上を合格とする。																																										
授業科目 の教育内容	看護師として病院、訪問看護などの臨床経験を持つ教務主任が在宅看護論援助論について教育する科目																																										

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	統合分野	授業科目	在宅看護論援助論Ⅲ
担当者	専任教員	履修年次	2年次
資格、役職等	(臨床経験5年)	及び学期	後期
単位数	1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>在宅療養をしている対象と家族の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>在宅での看護展開の特殊性を踏まえ、事例を通じ看護展開の方法を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第 1回 在宅看護の展開</p> <p>第 2回 事例提示（必要な社会資源を考える）</p> <p>第 3回 事例展開（情報の整理）</p> <p>第 4回〃（アセスメント・問題の明確化）</p> <p>第 5回〃（アセスメント・問題の明確化）</p> <p>第 6回〃（看護計画）</p> <p>第 7回〃（実施過程の考察）</p> <p>第 8回 まとめ</p>		
教科書	～家族看護を基盤とした～ 在宅看護論 I 概論編 II 実践編 日本看護協会出版会		
参考書	在宅看護過程 メヂカルフレンド社 強みと弱みから見た在宅看護過程 医学書院		
評価の方法	授業参加度・課題提出・課題達成状況 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院等で臨床経験を持つ専任教員が在宅看護論援助論について教育する科目		